

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990400046		
法人名	ウエルエージング株式会社		
事業所名	グループホームあおぞら		
所在地	栃木県佐野市吉水町991-1		
自己評価作成日	平成27年11月10日	評価結果市町村受理日	平成28年3月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成27年12月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、佐野市の中心部より北へ約5Km、道の駅どまんなかたぬまの北方に位置している。周辺は農村地帯で、自然豊かな落ち着いた環境の住宅地に立地している。又、地域の一員として自治会に加入しており、ホーム主催の納涼祭や避難訓練には、地域の方にも参加していただいたり、地域の行事には参加したりと地域との交流を積極的に行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、佐野市郊外の林や田畑に囲まれ、神社や小学校も近く、幹線道路から奥まった静かな場所にある。職員は、利用者と家族に丁寧に向き合い、互いの信頼関係を大切に、法人及び事業所独自の理念に基づき、利用者の一人ひとりに合わせた「オーダーメイドのサービス」の実践に努めている。事業所は開設から8年目であり、地域の一員として定着し、事業所行事や防災訓練に地域住民の参加を得るなど地域との協力体制の構築が進んでいる。また、運営推進会議は家族の参加も多く、活発な話し合いが行われ、運営に反映させている。地域と家族の理解・協力を得て、管理者・職員が手を取り合って、利用者がその人らしく生活できるよう支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念である【個人個人を尊重し、オーダーメイドの介護】を事務所に掲示している。また、敬う、思いあう、寄り添う、おもてなしの心を込めて支援し、理念の実践に努めている。	法人の共通理念に加えて職員全員で作成した当事業所独自の理念を一緒に事務室に掲げており、職員は常に目にしてその意義を共有しながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、地域の行動に積極的に参加している。散歩時に近所の方と挨拶を交わし、交流を図っている。	自治会に加入し、地域や事業所の行事などを通して交流するなど地域とのつながりを大切にしている。事業所の納涼祭や消防訓練に地域住民の参加を得ている。幼稚園や小学校の子供たちとの交流、よさこい・紙芝居などの地域ボランティアを受け入れるなど日常的に交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時、認知症の人の理解や支援方法を報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告や意見交換を行い、家族よりサービスの内容について、要望や質問に回答している。又、取組み内容については、職員と話し合っている。	運営推進会議は2か月に1回、市担当者、民生委員、町内会長、利用者、家族の参加のもとに開催し、各種報告、外部評価結果報告、議題検討など行っている。毎回複数の家族が参加し、活発な意見交換が行われ、運営に活かしている。	決まった構成員だけでなく、年間テーマを決めて、適宜、消防関係者や駐在所員等といった出席者を検討するなど、運営推進会議がさらにサービス向上に活かされるような取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	意見や地域の情報について、意見を頂いている。	市担当者とは、運営推進会議で情報提供を受けたり、事務的なやり取りも日頃から連携が図られている。さらに、地域包括支援センター職員にも相談などに適切に対応してもらうなど、連携がよく取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルや資料を参考にし、身体拘束のないケアの実践に努めている。	身体拘束をしないケアについて、夜勤勤務者以外の全職員参加の法人レベルの研修を実施している。事業所内でも毎月の職員会議の勉強会で職員の知識・理解の強化を図っている。玄関も日中は施錠せず利用者は自由に出入りでき、職員の見守りで安全を確保し対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の内容については、事務所に資料を掲示したり、常日頃から話をしている。		

グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1名の利用者が、成年後見制度を利用されており、勉強会を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に重要事項を説明しながら、利用者や家族の不安に思っていることを聞き、説明をして納得のいくように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。家族の面会時にも、管理者や職員は、要望や意見を聞くように努めている。	運営推進会議に多くの家族が参加し活発な意見交換が行われている。家族面会時や電話等でも意向を聞いている。重度の利用者を一度家に帰宅させ、ひと時を過ごさせてあげたいという家族の希望を実現し、感謝されたこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、朝、夕の申し送り時や勉強会を実施した際に、職員の意見や提案を聞き、業務の見直しなど運営に反映させている。	申し送り時・毎月の職員会議・現場において、管理者は職員の意見・提案等を聞くようにしている。時には時間外なども活用し、管理者・職員間の意思疎通が図れるよう努めている。薬の管理の工夫など職員からの提案が運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	五施設合同の会議を実施し、意見がしやすい環境を作り、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て、職員の能力や状況に合わせて研修を受けてもらい、研修後は報告書を提出し、職員会議時に発表の機会を設けるなどして、内容の共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内にある同法人の納涼祭へ参加したり、利用者、職員との交流を図っている。		

グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接で要望や情報を意見交換し、不安なく入居出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と面接を行い、家族が不安に思っていることや、困っていることを聞き、家族の意向が反映されるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族だけでなく、ケアマネジャーからも情報をもらいながら、本人や家族が望むサービスをいくつか提供し、選択できるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の出来る事を見極め、洗濯物のたみや掃除を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月入居者様の生活状況報告を送付したり、面会時にはホームでの様子を伝えて、情報の共有に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室に行ったり、家族の協力の下、積極的に外出をして頂き、知人や友人との交流を図れるよう努めている。	馴染みの美容室に付き添ったり、来てもらったりしている。中には月1～2回友人の来訪がある利用者もいる。道の駅に出かける等、できるだけ希望に応えながら、馴染みの関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の暮らしの中から、利用者一人ひとりの生活スタイルを尊重し、利用者同士の関係を理解するよう努めている。		

グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用解約後も、気軽に立ち寄って下さいと話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの希望を聞き、その人らしい生活が出来るよう、一人ひとりの思いを分かるよう努めている。	日頃の利用者との会話や仕草、表情などから本人の希望を把握している。俳画が趣味の人には静かな環境に配慮したり、生活上のこだわり、食べ物の好み、過ごし方の希望など、本人本位に検討し支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族より、生活歴などの情報を頂き、自分らしい生活が送れるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの一日の生活状況や、心身状態を観察し、その人の性格や、出来ることと出来ないことを見極めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を確認し、職員が担当を分担し、職員の気づきやアイデアを取り入れながら、介護計画を作成している。	新ケアマネジャーのもとに利用者全員の介護計画の見直しにあたっている。本人・家族と面談し、毎月行う職員会議時にケース会議を行いモニタリングし、担当職員をはじめ関係者の意見を参考に全職員で検討し介護計画の作成につなげている。見直しは半年ごとに行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝の申し送り時に、利用者一人ひとりの体調の変化や、職員間でのケアの統一、情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の要望を聞き、家族と相談しながら買い物や受診の対応を行っている。		

グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週牛乳やヤクルトに来てもらったり、地域ボランティアに来てもらい、楽しいひと時を提案している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向を聞き、今までのかかりつけ医と馴染みの関係を維持している。受診ノートを活用して適切な医療を受けられるよう支援している。	今までのかかりつけ医の継続を支援している。受診は主に家族が付添い、必要に応じ職員も同行し、眼科等には職員が対応している。医療機関と事業所の情報の伝達は口頭で行い、事業所の受診ノートに職員が記録し情報を共有できるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場には看護職の配置はないが、同法人の看護師に相談し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、職員が交代で面会に行き、状態や看護師との情報交換に努め、退院後のケアに活かせるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを希望される入居者様には同意を取り、看取りマニュアルを基に、主治居医や家族、職員間での連携を図りながら支援している。	契約時に本人・家族と事業所で話し合い重度化・終末期に関しての方針を確認している。看取りを希望する場合には同意書を取り、主治医に相談し家族と連携を取りながら支援している。職員も勉強しており知識・理解を深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故に備えて、マニュアルを提示している。又、全職員でマニュアルの内容を徹底し、急変時や事故に対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練、避難訓練、夜間対応の避難訓練、通報訓練を実施している。	消防・避難訓練は夜間想定訓練を含め、年に2回実施している。事業所の緊急連絡網に登録している地域の方にも連絡し訓練に参加してもらっている。所内での避難訓練も3か月に1度実施している。水・食料等の備蓄もある。	

グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊敬し【さん】付けの徹底や、排泄の声掛けには配慮を心掛けている。	利用者の個人記録等は事務室の書庫に保管し外から見えないようにしており、職員の職場外への持ち出しも行っていない。トイレ誘導の際の声かけもさりげなく行いドアも開け放さないなど自尊心やプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意思を尊重し、一人ひとりの性格などを理解している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの生活ペースに合わせ、希望により、個別で買い物や散歩等を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張の福祉美容を取り入れ、ヘアカットを利用者様の希望で行っている。洋服は家族が購入したり、職員と外出した際に一緒に選んで購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	多くの利用者様の好きな刺身や煮物は、メニューに取り入れている。又、台所へ下膳など利用者様に出来る事は進んで一緒にしている。	献立・食材買い出し・調理は決まった職員が行い、毎回美味しい食事を提供している。ジャガイモの皮むき、下膳、食器拭きなど利用者と職員が一緒に行い、食事と同じものを食している。外食・出前・流しそうめんなども楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量を確認している。又、自由に水分摂取できるように、セルフコーナーを設置している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて、一人ひとりに合った歯磨きやうがいを実施している。		

グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日誌に排泄のチェックを記入し、排泄のパターンを理解している。排泄の時間帯や声掛けでの誘導や見守りを利用者様一人ひとりに合った支援を行っている。	一人ひとりの排泄の状況を記録し、排泄パターンを把握して便意の状態を察知するように努めている。それぞれに合った声かけや見守りをしながら、できるだけトイレで自分で排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ラジオ体操で、身体を動かしたり、水分を多めに補給したり、おやつに食物繊維を取り入れたり、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決まっているが、個々の希望に沿って出来る限り入浴出来るように支援している。	入浴は週3回のペースで基本的には午前中に行っている。浴室と脱衣室に1名ずつの職員で介助し、全介助の利用者にも3名の職員で対応し入浴を楽しんでもらっている。入浴剤も使用して気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングのソファでゆっくりしたり、居室で一人になる時間を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の飲み忘れや誤薬を防ぐために、職員が責任を持って最後まで内服確認し、チェック表に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後のテーブル拭きを日課にされている方や、散歩されたり、リビングからは、カラオケの曲に合わせて口ずさまれたりと、思い思いに過ごされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候や体調をみながら、近隣への散歩や買い物に出掛けている。又、ご家族様の協力を頂きながら月1回の外出支援をしている。	自由に外出できるように玄関には施錠せず、利用者は好きな時に近隣を散歩している。家族との外出では半日程度外で一緒に過ごし食事して戻るなど楽しんでいる。年間計画のもと紅葉の場所や花センターなど全員での外出も支援している。	

グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より小口現金をお預かりし、外出時に自分で買う楽しみを作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が電話番号をまわし、家族と話されたり、家族からかかってきた電話にでられた時は、嬉しそうに話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月その月に合った壁紙を職員と合同で制作した物を貼ったり、季節の花を飾ったり、入居者様が描いた俳画などを展示している。	リビングには広いベランダ越しに陽光が入り、加湿器・空気清浄器が稼働し、台所、浴室、トイレも清潔に保たれている。リビングや廊下には、花や利用者と職員の楽しい写真、季節の飾り付けが施され、ソファも置かれて居心地良く過ごせる空間になるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のリビングには、ソファや畳があり、思い思いに過ごされている。又、玄関にはベンチが置いてあり、独りでゆったりと外気浴をされたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた物や、馴染みのある家具などを持って来て頂いている。写真や人形を飾るなど、自分の家の様に過ごされるよう支援している。	居室にはエアコン、ベッド、洗面台が備え付けになっているが、使い慣れたベッドや筆筒、テレビ、洋服かけなど持ち込んでもらっている。家族写真や自作の俳画などを居室に飾っている人もいる。できる人は自分で掃除し、職員が確認し清潔な状態を保つようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人ひとりに合った福祉用具を利用している。廊下やトイレ、お風呂場には、手すりが設置され、安全に配慮されている。		